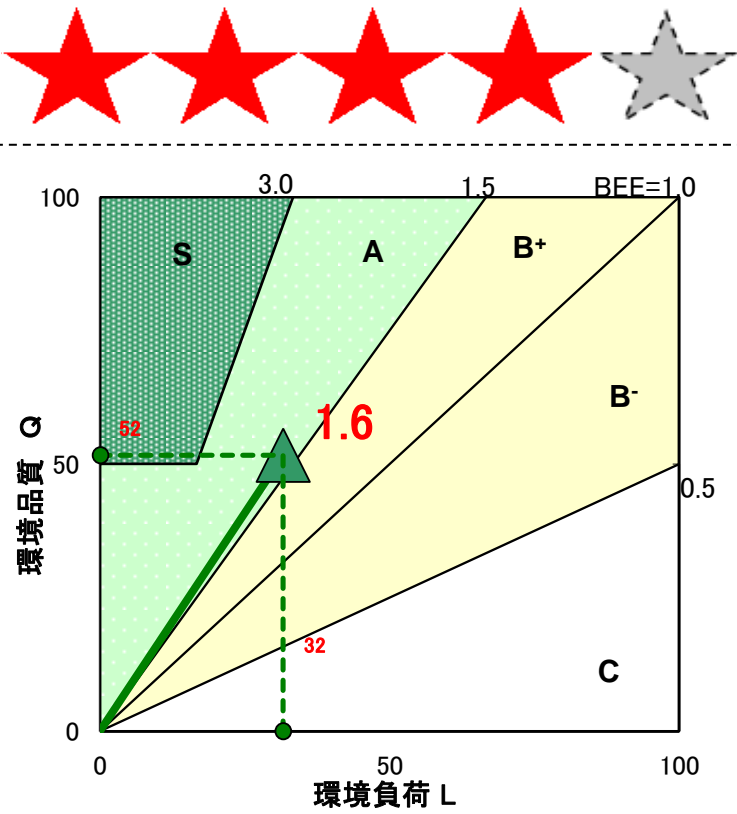


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	熊本回生会病院新築工事	階数	地上6F		
建設地	熊本県上益城郡嘉島町鯉1880番地	構造	RC造		
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	360 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年11月18日		
敷地面積	5,496 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	3,218 m <sup>2</sup>	確認日	2013年11月21日		
延床面積	11,450 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



**BEE = 1.6**

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



排出率

**61%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		<b>85</b>
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	<b>94.1</b>
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	<b>75.0</b>
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	<b>82.5</b>
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	<b>81.7</b>

■ 熊本県重点評価基準

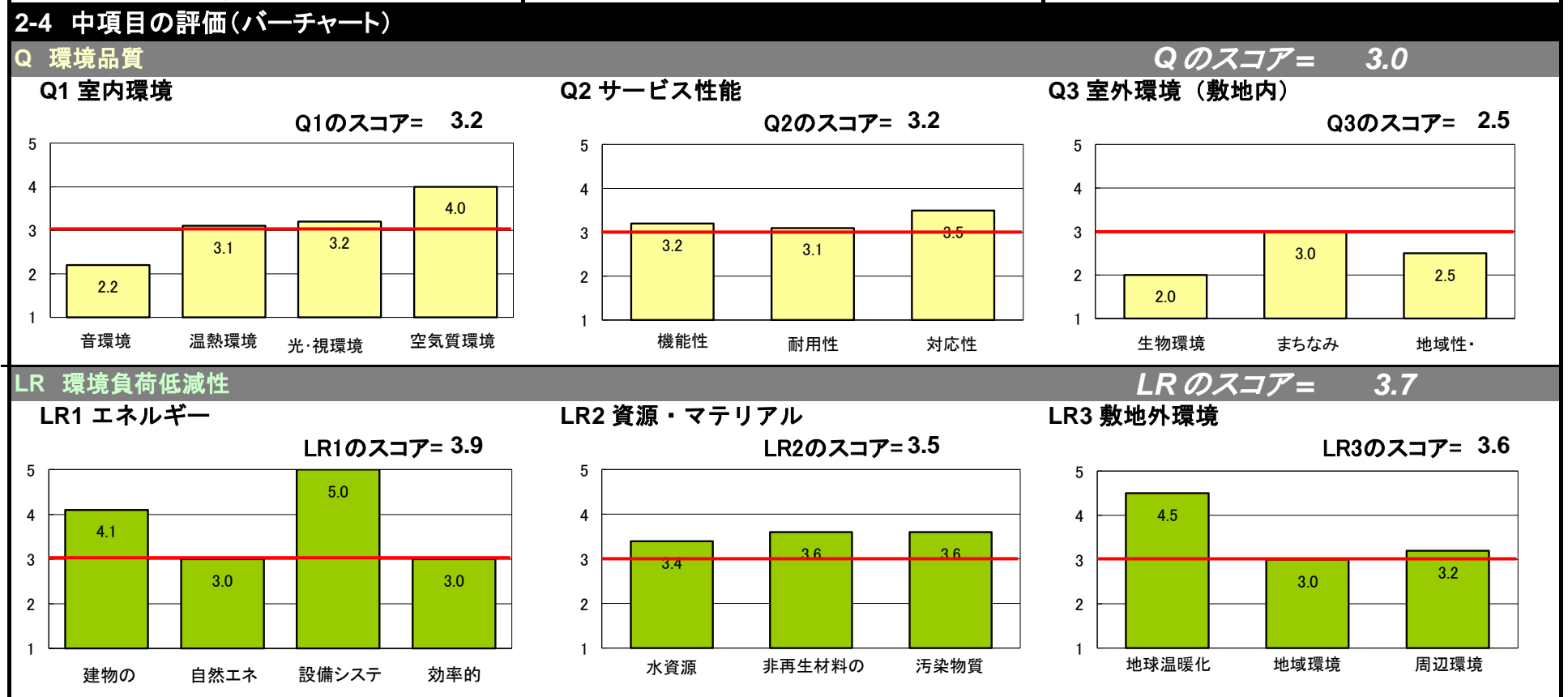
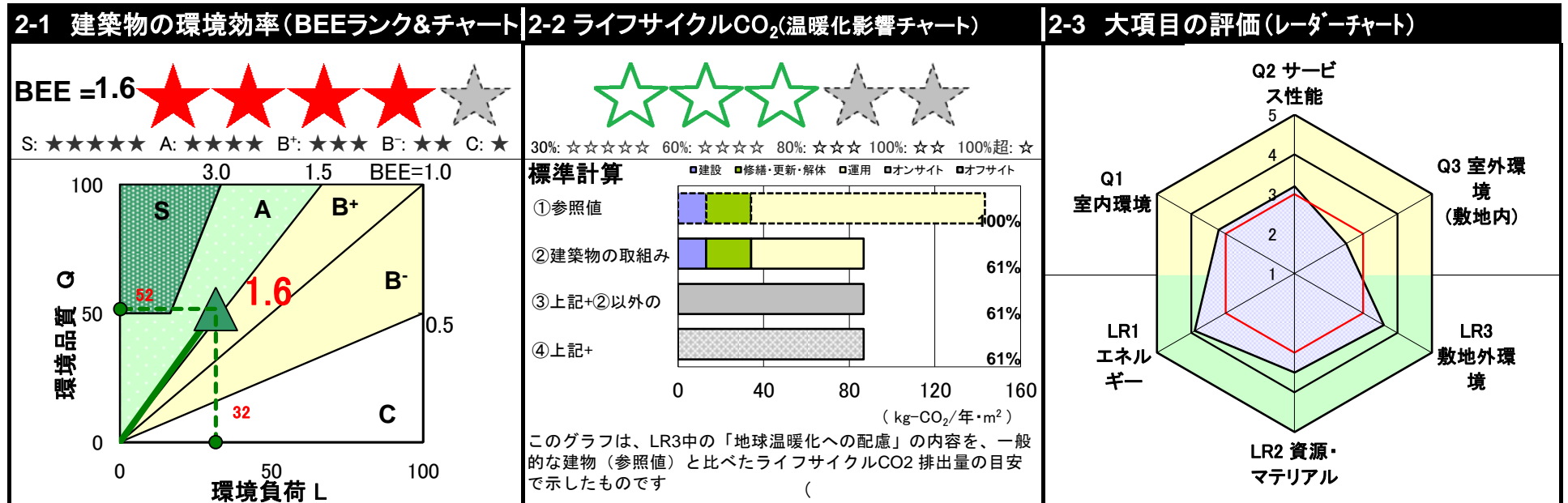
判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本回生会病院新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本県上益城郡嘉島町鯉1880番地	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	360人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年11月18日
敷地面積	5,496 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	3,218 m <sup>2</sup>	確認日	2013年11月21日
延床面積	11,450 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版 熊本回生会病院新築工事		欄に数値またはコメントを記入	■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)			
スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>						<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.2</b>	0.15	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.2</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	5.0	1.00	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>1.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.1</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.3</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.6</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30	
1 昼光率		4.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気環境</b>		<b>4.1</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>2.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.9</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		4.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	5.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	



2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	・グリーン購入適合品 ・配管の系統区分 ・井水利用	5.0	0.20	-	-
3	電気設備	・非常用発電機、屋外キュービクル ・地下への浸水なし	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	・光ケーブル、PHS ・浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	3.8	1.00
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.6	0.50
1	階高のゆとり	【共用部】階高(1階):4.2m 【住居部】階高(3階):3.9m	5.0	0.60	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	【共用部】比率:0.13 【住居部】比率:0.14	4.0	0.40	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる (天井点検口)	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる (天井点検口)	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		PAL値277.8	4.1	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率設備機器の採用	5.0	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=50.6%	5.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1 節水		・自動水栓、泡沫水栓 ・節水型便器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン、再生密粒度アスファルト混合物	4.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁:GL 天井:軽天	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1 消火剤			-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		・スタイロ(ノンフロン型) ・現場発砲ウレタンA種(ノンフロン型)	5.0	0.50	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		リサイクル材の使用	4.5	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制		・駐車場、駐輪場設置 (既設病院跡地)	4.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1 騒音			3.0	0.33	-	-
2 振動			3.0	0.33	-	-
3 悪臭			3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン項目過半を満足	5.0	0.70	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

周囲の景観に調和するようシンプルな外観デザインとした。  
ゆとりある間取りで病室の快適性を重視した設計とした。

### Q1 室内環境

・建築基準法規制対象外となる建築材料（F☆☆☆☆）を採用し、良好な室内環境を図った。

### Q2 サービス性能

- ・衛生器具でグリーン購入法適合品を採用
- ・建築物移動等円滑化誘導基準を満足
- ・耐用年数の長い配管材を採用

### Q3 室外環境（敷地内）

・敷地内に緑地を設け、周辺環境との調和に配慮した。

### LR1 エネルギー

- ・照明、空調機器で高効率の機器を採用し省エネルギーに努めた。
- ・西面にはLow-Eガラスを採用し、遮熱効果を高めた。

### LR2 資源・マテリアル

- ・非構造材料にリサイクル資材を採用し自然環境の保全に努めた。
- ・給水設備で節水型器具を採用。

### LR3 敷地外環境

・透水性アスファルト舗装や浸透側溝を設置し、雨水による敷地外への負荷低減に努めた。

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本回生会病院新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	85.5	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.1	0.40	37.64
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.1	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81.7	0.20	16.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数